私の イタリア語 + R

※2023 年度インタビュー

文学部 O さん

キーワード

イタリア語で広報物を理解したい　# 憧れの選手

コロナ禍でのオンライン授業　# 理解できずモチベーション下がる

イタリア現地の友達　# バレーボール　# 教会礼拝

長期留学　# 弁論大会　# イタリア人と日本人の交流会開催

イタリア語を学び始めたきっかけはバレーボールでした。

中学生・高校生の頃、自身がバレーボール部に所属していたこともあり、中学生の頃からある日本人バレーボール選手のファンでした。高校１年生の時に大阪でバレーボールの国際試合があり、そこでイタリア・フランスの選手が写真撮影やサインをしてくれたことや、中学生からファンだった日本人選手を生観戦し、世界バレーに興味を持ちました。ファンの選手はイタリアで活躍をしている日本人選手で、現地での広報物は当然ながらイタリア語のため、それらを理解したいという思いがありました。また、その選手自身もイタリアに渡伊した際は一言も話せなかったイタリア語が、その後流暢に会話していることもイタリア語を修得するモチベーションとなりました。

そんな想いとは裏腹に、入学直後新型コロナウィルスの影響で授業の全てがオンライン授業となってしまいました。当然イタリア語もオンライン授業で、日本語の分からないイタリア人教員の授業は何を話しているのか理解が追い付かずモチベーションも下がる一方でした。しかし一方で大学進学のために高い学費を払ってもらっているため、必ず語学をモノにしたいという強い想いもありました。

２回生時のイタリア語の授業は、当初は何を言っているのか理解に苦しみ、辛い時期もありましたが、受講生が少ないことで、マンツーマン授業を実施してもらえたことは良かったです。また、プライベートでは千葉で開催されたバレーボール国際試合でスタッフとして働くことが出来、モチベーションを上げる良い経験となりました。

当時お世話になっていた先生からの勧めもあり、３回生の 2022 年9月～2023年7月にボローニャ大学＊に留学しました。ボローニャ大学での交換留学は前例がなく、渡伊当初は苦労の連続でした。また、イタリア語での意思疎通が不十分で英語で話していたこともあります。しかし、大好きなバレーボールを通じて徐々に現地の仲間が広がっていき、交流を深めることが出来たと同時に、着実に語学の上達も感じるようになりました。現地の友達が使用している言い回しや言葉をそのまま真似て覚える・学習することを意識していました。バレーボールの試合観戦中、隣に着席していたローマ出身のイタリア人の友達とは今でもこまめに連絡を取り続けています。

ボローニャ大学では日本語クラスを取り、互いの言葉のシェアをしたり、イタリア人の友達に勧められた教会に通い、積極的に現地のイタリア人と交流を図り語学の上達に努めました。

帰国後、4回生では留学前にお世話になっていた先生からの勧めで弁論大会＊＊にチャレンジしました。先生や留学生が毎週スピーチや原稿を見てくださり弁論大会当日、審査員の先生から「良かったよ」と声をかけてもらえたことが自信につながりました。先生方の助けやご協力がなければ、弁論大会のチャレンジやイタリア人と日本人の交流会開催も無かったため、大変感謝しております。

イタリア語を学べば毎日が楽しくなる！（イタリア人マインド）

イタリア語は音楽のように美しい言語であるため皆さんにも美しさに触れてみてほしいです。日本の生活の日常にもイタリア語がちりばめられている場面が多数あり、日本語に訳せない言葉のもつ意味の美しさを理解できることが醍醐味と感じています。

語句紹介

＊ボローニャ大学：イタリアの公立大学　国際教育センターが提供する長期留学プログラムと提携先大学（2023年度時点）

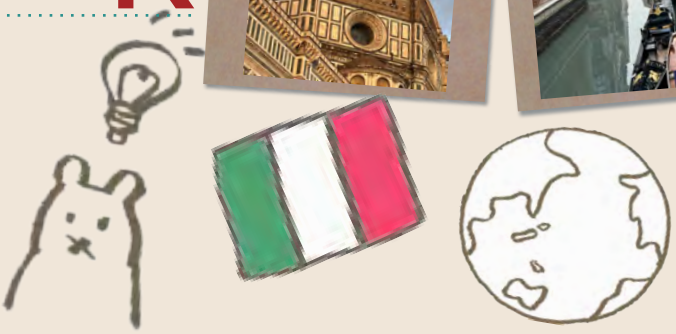
＊＊弁論大会：全日本学生イタリア語弁論大会

私のイタリア語＋R

※2023 年度インタビュー

文学部 Y さん

キーワード



イタリア語を話せるようになりたい

後悔の経験

イタリアにバックパック旅

自らイタリア語に接する機会を作る　# 留学生との交流企画開催　# 弁論大会　イタリア領事賞を受賞

小学校３・４年生時、図書館の歴史コーナーで世界遺産が紹介されており、ふと手にした遺跡類の図書に大きな感銘を受け、そこで初めてイタリア語の存在を知ることとなりました。しかし高校生までは具体的なイタリア語についての学習を長期的に継続して学習したわけではありませんでした。（一度トライはしたものの3日坊主で諦めた経験あり。）大学への入学後は、大戦期のドイツ史を研究したかったこともあり、当初はドイツ語を選択する予定でしたが、立命館大学でイタリア語が学べることを知り、イタリア語を選択しました。

1回生の時は周囲の友達たちが英語を中心に頑張っていた環境も影響し、英語力を伸ばしたい想いが強かったため、イタリア語に重点を置いた学習はしていませんでした。

しかし、２回生時に転機が訪れます。イタリア語を選択した以上、イタリア語をそれなりに話せるようになりたいという想いが強かったこと、そしてイタリア語を更に勉強するには、実際にイタリアに行ったほうが言語学習のモチベーションも上がると思い、単身で１ヶ月イタリアにバックパック旅を敢行しました。日本にいると日常的にイタリア語に接する機会が少ないため、自分からきっかけを作らないとイタリア語を学べないと思ったからです。バックパック旅が始まった最初の頃は電車が時間通りに来ない、喫煙者が多い等、日本と大きく異なる文化にカルチャーショックを受けました。お国柄としてはとても陽気で周囲に優しく、フレンドリーなタイプが多いということも印象的です。イタリアでの経験を通して、自分自身が多くの人の協力や優しさによって支えられて生きているという貴重な経験をしました。これらの経験が、後の弁論大会のテーマになることになります。

イタリアでの経験の一例ですが、イタリアとフランスの国境に行った時、現地の人みんなが英語を話せない環境の中、希望の行先へのバスの乗り方がわからず駅員さんに尋ねていたところ、年配のイタリア人男性が声をかけてきてくれました。しかし助けてくれたその方のバスが早く到着してしまった関係で、知りたかった情報を十分に聞くことが出来なかったため、自分が行きたい場所までの情報を送ってくれるとのことで、メールアドレスを交換しました。その日の夜、その方からメールが届き、バスの時刻表や電車の時刻表、現地で活用できるイタリア語のフレーズ等、親切に詳細が書かれていました。また、最後のメッセージが英語で書かれており、そのメッセージに感銘を受けました。その内容は、その男性が過去 180 か国をバックパックで旅し、君（僕）より2倍以上の年を生きていて、自分が若い時に周囲から受けた恩恵を、次は若い世代の君（僕）に返しているんだ。という内容でした。見ず知らずの人を含めて人の優しさに支えられ、今の自分があるということを学んだ貴重な経験でした。

イタリアから帰国後は、積極的にイタリア語に触れる機会を増やすために、留学生との交流機会を作り、同じイタリア語学習者と共に企画（イベント）の開催を行いました。また、渡日イタリア人観光客の観光アシスタントのアルバイトにも挑戦し始めました。うまくいくことばかりではなく、観光をアシスタントするにあたって「もっとこう伝えれば良かった。」などの後悔も経験しながら、それが良いモチベーションとなり、更に向上することにつながりました。イタリア語学習の集大成として、全日本学生イタリア語弁論大会に挑戦し、イタリア総領事賞を受賞することができました。

イタリア語の学習はとにかく自分の五感を使って言語化することが大切で、目で見る・書くだけではなく、自分の解釈や解説を口に出して説明してみたり、ノートや単語帳に書き留める等の工夫をすることによって学びを深めていきました。1回生の時にしっかりと文法を頭に叩き込んでおくと、後々応用がきいたイタリア語が学べるでしょう。
立命館大学はイタリア語を学習するためのハードルが低く、学習しやすい環境だと思います。